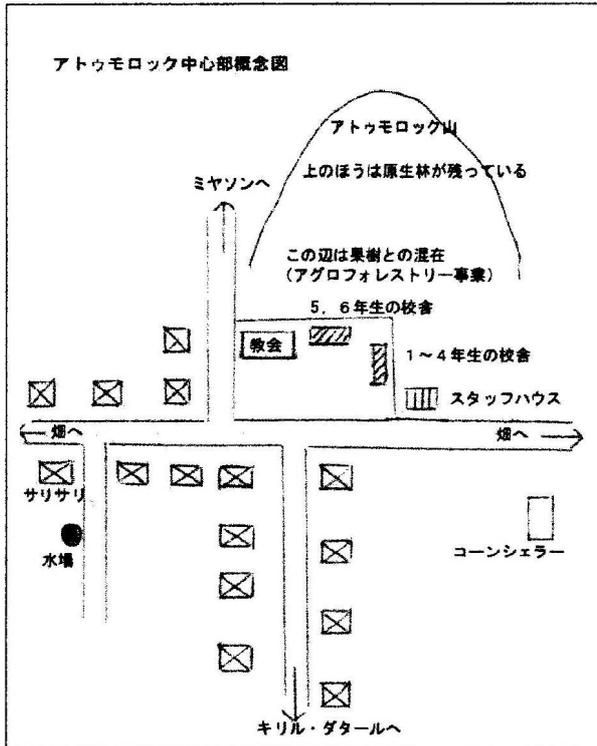


年の生徒のミュージカルは、山の木を切ってしまう青年に自然界の動植物が困り、天女が天界から降りてきて諫めるといふもの。自然を大事にするピラーン人らしい感動的なストーリーだ。この日は一旦ジェネラルサントス市内へ戻る。

3日目、サムラングから徒歩でアトゥモロックへ移動。小休憩を取りながら約4時間の旅。メルトン神父、アトゥモロックの少年2人、ピサヤ人のボランティア2人、私の6人だ。川沿いの小道を上流に向かって登って行く。怪我をして迷惑をかけてはいけない、と必死についていくが、途中からほとんど90度の斜面を木の根を足がかりにして登ることになる。リュックを背負い続けることが困難になり、先日小学校6年を卒業したフレディー君に持ってもらおう。その後は快調。ミヤソンからいく道とは異なる、人ひとりしか通れない本当に細い道だが、徐々に森の中から畑の中の道になる。この道は近道ということもあるが、ピサヤ人と敵対している時は、彼らに会わずに移動するために作られたということも考えられる。そしてアトゥモロックの家々が立ち並ぶ間を抜けると、スララ寮の女子高生たちに会う。夏休みの帰郷中だった。寮で会う彼女たちとはまた違う、故郷に帰り生き生きとした雰囲気を感じた。家族のつながりを大事にするピラーン人。それを断ち切ってまで街で勉強することが、彼女たちにとって意義あることになって欲しい。

汗と泥にまみれたので、水浴び後、彼女たちに村の中を案内してもらおう。



この村で最初のプロジェクトを通じて支援したコーンシエラーは今も活躍中。畑も手入れが行き届いている。焼畑をするときは、狭い面積なら1人で行うが、広範囲なら2,3人で行うとのこと。男性は暑い日中を避け、早朝と夕方、畑で働くので、昼間は庭でのんびり近所の人とおしゃべりしている。村の中で唯一の水場は、一日中水汲み、洗濯、水浴びでにぎわっている。子供たちは皆よく水汲みの手伝いをするし、食事をした食器一式をたらいに入れ持って来て洗う女性もいる。ホースから流れ出る水を順番に廻し、平等に使う。サリサリストアは全部で3軒あり、その中の1軒の庭でコーンを手で剥いていたので手伝う。家の建物は木材あるいはニツパヤシの簡素な作りだが、庭はどの家も広くとっている。が、きっちり囲ってしまうわけではなく、誰が通り抜けて行ってもいい。余裕があれば、生垣にきれいに整えたり、花を植えている。足踏みミシンと電動ノコギリを持っているお宅があった。話を伺うと、パッションストとは別の会派の教会のプロジェクトで支援してもらったとのこと。ミシンは女性の能力開発に役立っているそうだ。

この村を見守っているのが私たちの団体だけでないことにむしろほっとする。ピラーン人に多くの機会が訪れるよう、様々な団体から特にフィリピン国内の支援団体からの視線が必要だろう。

4日目、午前中は学校で6月に入学する新入生の登録があった。親について来た子供たち（といっても女の子ばかり。男の子は恥ずかしがり？）に〇×遊びを教え、一緒にやる（地面に井の字を書いて、マスに〇と×で順番に埋め、3つつなげる遊びです）。飲み込みのいい子は何手も先を読んでくる。畑仕事に行く男性がいたので、あとをついて行く。ジャガイモの畑だ。水のタンクに粉末肥料を溶かし、それを背負って手動ポンプで作物の根本に撒いていく。あとから2人やってきて、3人で畝の間を行きつ戻りつ撒いていく。水は先に大きなプラスチックタンク4つに汲んで運んで来てあった。畑が水場から遠い人は大変だろうし、馬を持っておらず、水を自力で運ばなければならない人も大変だろう。そのあたりの細かい作業分担や馬、水牛の所有についても聞いてみたいが、言葉の壁がある。

午後、サリサリストアの店番を他の女の子たちとしてしていると、ミヤソンからピサヤ人商人が馬に米を積んで売りに来た。1（単位がわからない）50ペソ（130円）で、村人にとっては大変高いという。畑が広がり豊かな村にみえても現金収入はなく、米を常食できる生活はまだままだのようだ。その後歩いて15分ほど離れたキリル・ダタル(Kiril Datal)という村に連れていってもらった。最初「歩いて30分以上かかる。遠いよ」等言われたが、時計のない家も多いこの村のこと、時間の観念はあいまいであった。アトゥモロックとキリルは互いに親類が多く、子供たちは、親類でなくても友人の家に泊まるのも普通のことであるようだった。この村からも多くの小学生がアトゥモロックの小学校に通っているし、寮に入り、街の高校に通う奨学生もいるので行って見たかったのだ。キリル・ダタルは「両側が平ら」という意味だそうだ。そのとおり、広々とゆるやかな高低差がある平原に道が一本通り、その両側に家があるといった感じの集落だった。暗くなり、どの家が奨学生の家かわからなくなってきたので帰る。

5日目、早朝5時から聖週間のミサ。聖歌隊の女の子たちが天使に扮するというので見に行く。純白の衣装を自分で